

国公立大セ試「5教科7科目以上」は、 105大学 379学部に増加！

横浜市大では後期を廃止し、“前期一本化”に

旺文社 教育情報センター

平成16年9月

17年の『入学者選抜要項』が、先ごろ各国公立大から発表された。

学力低下が指摘される中、国立大では、国立大学協会の“センター試験5教科7科目化”提言を受け、5教科7科目以上を課す大学・学部が、15年の53大学101学部から、16年は72大学312学部に急増し、さらに17年には77大学335学部にまで増加している。一方、AO入試や推薦入試など、入試の多様化も引き続き拡大している。

17年の受験生数予測

大学受験生数は、3万1千人減の69万1千人に！？

18歳人口・高校卒業者数の推移をみると、15年以降は勾配のきつい下降線を描いて減少している。また、厳しい経済状況を反映し、資格取得に直結する専門学校（専修学校専門課程）への進学者数は増加傾向にある。

こうしたことなどから、16年の大学・短大受験生数（実数；浪人を含む。大検等を除く）は82万7千人で、15年より2万7千人（3.2%）減少した。特に大学は72万2千人（前年比2.8%減）で、2年連続減となった。

18歳人口・高校卒業者数の減少や専門学校への進学拡大は、17年以降も続くと思われる。17年の大学・短大受験生数は、16年より3万5千人（4.2%）減の79万3千人程度になるものと予測される。このうち、17年の大学受験生数は3万1千人（4.3%）減の69万1千人程度とみられる。

一般入試 センター試験

国立大の5教科7科目以上は、77大学（93%）・335学部（87%）で、7万2千人（75%）が対象に。

<セ試の出願予測>

17年入試で新たにセンター試験（以下、セ試）に参加する大学は、公立の16年新設大である国際教養大 国際教養、香川県保健医療大 保健医療、愛媛県医療技術大 保健科学、及び16年新設学部の群馬県女大 国際コミュニケーション、和歌山県医大 保健看護（い

ずれも 16 年入試ではセ試を課さない別日程入試を実施)である。因みに、私立では東北学院大・青山学院大・西南学院大など 21 大学 75 学部がセ試利用入試を新規に導入する。

国際教養大は 17 年に、分離分割方式による日程(前・後・中期)とは別の日程で一般入試(セ試と個別試験を課す)を新たに実施するため、私立大や他の国公立大との併願が可能になり、受験機会が拡大する。このような独自日程入試は、国公立大としては初の試みであるが、その背景として、16 年に行った別日程入試(セ試を課さず、個別試験のみ)で、全国 47 都道府県から多くの受験生を獲得でき、「国際化に対応した、徹底した英語教育」が彼らに理解されたとの確信が大学側にあったようだ。今後、国際教養大のような独自日程入試を導入する大学も出てこよう。

また、17 年からは公立 6 短大、私立 16 短大がセ試に初参加するが、セ試受験者層は四年制大との併願者が看護系など、ごく一部に限られ、17 年セ試への影響は小さいとみられる。

17 年のセ試志願者数は、大学受験生数の減少する中、セ試現役志願率のアップ傾向、私立大セ試利用入試の拡大と人気などを勘案すると、16 年よりやや減の 57 万人台と予測される。

< 試験日程 >

17 年セ試については、16 年 10 月 4 日(月)から 10 月 15 日(金)まで出願受付が行われ、17 年 1 月 15 日(土)・16 日(日)の両日に本試験が実施される。正解等は、1 月 15 日・16 日のそれぞれについて、当日の試験がすべて終了した後(試験当日の夜になる模様)、大学入試センターのホームページ等で発表される予定である。平均点等の中間発表は 1 月 19 日(水)、得点調整実施の有無の発表は 1 月 21 日(金)の予定。追試験は、1 月 22 日(土)・23 日(日)に行われる。

< 受験教科・科目 >

国大協の“5教科7科目化”提言

国立大学協会(国大協)では、学力低下対策の一環として、国立大志願者に対し、16 年からセ試の 5 教科 7 科目(ここでは地歴と公民を合わせ 1 教科<社会>として表示)受験を原則とすることなどを盛り込んだ『国立大学の入試改革 - 大学入試の大衆化を超えて - 』(12 年 11 月)を提言した。

各国立大ではこれを受け、16 年にはセ試 5 教科 7 科目以上を課す大学が、15 年の 53 大学(全国立大の 57.0%)から 72 大学(同 86.7%)へと急増し、さらに 17 年には 77 大学(同 92.8%)に増加する。国立大の 9 割以上がセ試 5 教科 7 科目以上を課すことになる。

セ試の受験パターン

17 年セ試で課せられる教科数の状況を、国立大と公立大別に図 1 に示した。

国立大では 5 教科以上を課す学部が圧倒的に多いが、公立大では 3、4、5 教科に分散している。国立大を中心とした 5 教科 7 科目以上の編成をみると、次のような 3 タイプに類型化される。

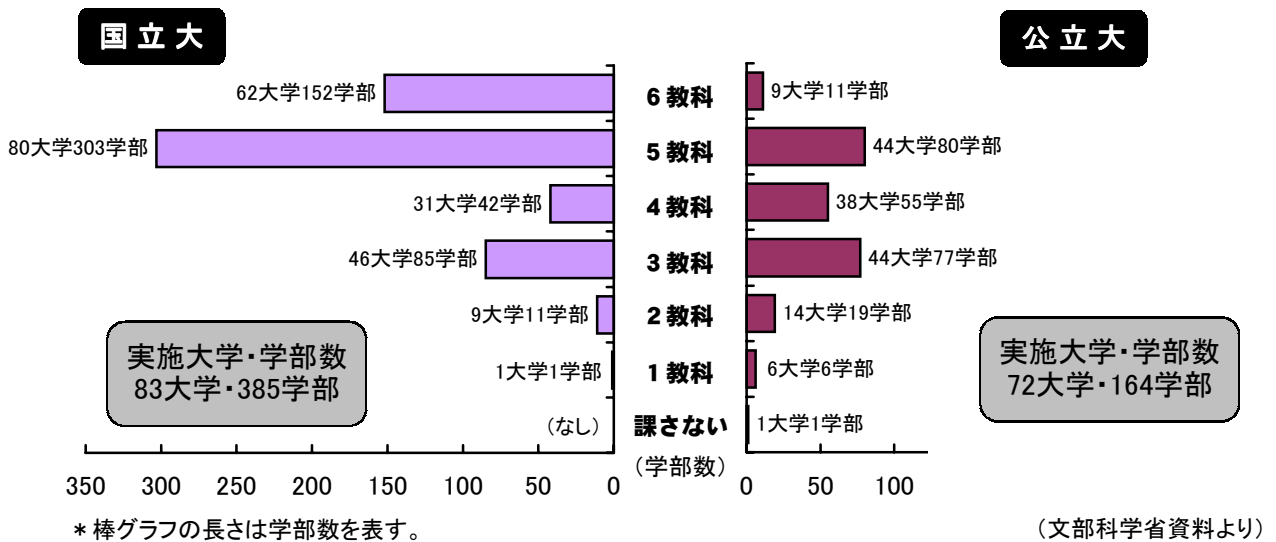
①文系型	国語+地歴+公民+数学(2)+理科(1)+外国語
②理系型	国語+「地歴・公民」から(1)+数学(2)+理科(2)+外国語
③混在型	国語+「地歴・公民・理科」から(3)+数学(2)+外国語、など

注. ()内の数字は科目数。

と は、それぞれ文系と理系学部で最も多い、標準型ともいえるタイプである。

これ以外の 混在型の中には、上に掲げた「地歴・公民・理科から3科目+数学2科目」や、「地歴・公民・理科・数学から5科目」のような教員養成系に多いタイプの他、「地歴+公民+理科2科目+数学1科目」や「地歴+公民+数学・理科から3科目」のように文系型に近いタイプも含まれる。

●17年センター試験教科数&実施大学・学部数 (図1)



「5教科7科目以上」課す大学・学部

17年にセ試5教科7科目以上を課す大学・学部数は、国立77大学335学部、公立28大学44学部で、合計105大学379学部である。16年は、国大協の“5教科7科目化”提言もあり、国立大でセ試5教科7科目以上を課した学部数は、15年より約3倍増の312学部(全学部の80.4%)、対象となる募集人員は約5倍増の6万4,389人(入学定員の65.9%)にまで達した。さらに17年も、16年の72大学312学部77大学335学部に増加し、対象となる募集人員は72,349人(同75.0%)に増加した。

公立大でも5教科7科目以上を課すところは年々増えているが、実施学部の割合は26.8%で、対象となる募集人員も15.8%に留まり、国立大に比べると低調だ(表1・表2参照)。

センター試験で5教科7科目以上を課す大学・学部数 (表1)

区分	17年		16年		対前年増減		
	大学	学部	大学	学部	大学	学部	
国立大	77 (92.8%)	335 (87.0%)	72 (86.7%)	312 (80.4%)	+5	+23	
公立大	28 (38.9%)	44 (26.8%)	19 (26.0%)	32 (19.8%)	+9	+12	
合計	105 (67.7%)	379 (69.0%)	91 (58.3%)	344 (62.5%)	+14	+35	
全体	国立大	83	385	83	388	±0	-3
	公立大	72	164	73	162	-1	+2
	合計	155	549	156	550	-1	-1

注.()は、全体数に対する割合。

(文部科学省資料より)

センター試験で5教科7科目以上を課す募集人員 (表2)

区分	17年	16年	対前年増減	
国立大	72,349 (75.0%)	64,389 (65.9%)	+7,960	
公立大	3,769 (15.8%)	2,374 (10.5%)	+1,395	
合計	76,118 (63.3%)	66,763 (55.5%)	+9,355	
入学定員	国立大	96,408	97,676	-1,268
	公立大	23,847	22,537	+1,310
	合計	120,255	120,213	+42

注.()は、入学定員に対する割合。(文部科学省資料より)

文系「6教科」の増加

各学部(学科)のセ試の利用教科数をみると、6教科を課す国立大が15年の3大学3学部から、16年は53大学135学部へと急増し、さらに17年には62大学152学部増加している。これは、地歴と公民の両方を課す(2教科2科目)文系の学部が増えているためで、15年までは文系でもほとんどが地歴と公民から1科目を課していた。

セ試の教科・科目増

16年は、国立大を中心にセ試“5教科7科目化”により、セ試の入試教科・科目数を増やしているところが多かった。17年も、主に次のような大学・学部でセ試教科・科目数を増やしている。なお、ここでは「地歴と公民を合わせて1教科」として表示してある。

以下、(前)は前期、(後)は後期をそれぞれ表す。

[国立大]

北海道・東北：北海道教育大 札幌校・函館校・旭川校・釧路校・岩見沢校<一部の課程を除く>(前)=5教科6科目(以下、5-6と略記) 5-7/室蘭工大 工<昼>(前)4-4(5) 5-7/小樽商大 商<昼・夜>(前・後)4(5)-6 5-7/東北大 文・教育・法・理・医・歯・薬・工・農(前・後)5-6 5-7

関東・甲信越：茨城大 人文・教育(前)5-5(教育の学校教育=技術は3-3) 5-7/筑波大 第二学群<生物資源学類>(後)2(3)-3 4(5)-5/千葉大 文・

教育(前・後) 5 - 5 <教育の生涯教育は3 - 3> 5 - 7、園芸<園芸経済>(前・後) 5 - 6 5 - 7 / 新潟大 人文(前・後) 5 - 5 5 - 7 / 上越教育大 学校教育(前・後) 5 - 6 5 - 7

北陸・東海：富山医薬大 医<看護>(前) 5 - 6 5 - 7、薬(前) 3 - 4 5 - 6 / 金沢大 法(後) 5 - 6 5 - 7 / 三重大 人文(前) 5 - 5 5 - 7

関西：京都工繊大 工芸<夜；物質工>(前) 4 - 5 4 - 6 / 兵庫教育大 学校教育(前・後) 5 - 6 5 - 7

中国・四国：岡山大 農(後) 3 - 3 5 - 7 / 広島大 工<第二类 = 電気系>(後) 3 - 5 4 - 6 / 鳴門教育大 学校教育(前・後) 5 - 6 5 - 7 / 高知大 理(前・後) 4 - 4 (5) 5 - 7

九州：佐賀大 医<看護>(前・後) 5 - 5 5 - 6 / 琉球大 教育<学校教育 = 音楽・保体、生涯教育 = 生涯健康>(前) 5 - 5 (6) 5 - 7

[公立大]

北海道・東北：青森県保健大 健康科<理学療法>(前) 4 - 4 4 - 5 / 岩手県大 総合政策(前) 3 - 3 5 - 5、(後) 2 - 2 5 - 5 / 秋田県大 システム科学技術・生物資源科(前・後) 5 - 6 5 - 7

関東・甲信越：茨城県医療大 保健医療(前・後) 4 - 4 ~ 6 5 - 7

北陸・東海：愛知県大 情報科学(前) 5 - 6 5 - 7、三重県看護大 看護(前・後) 5 - 6 5 - 7

関西：滋賀県大 人間文化<地域文化>(前) 5 - 5 5 - 6 / 京都府医大 医<医>(前) 5 - 6 5 - 7 / 兵庫県大 工(前・後) 4 - 6 5 - 7

中国・四国：山口県大 生活科学<栄養>(前・後) 5 - 6 5 - 7

九州：福岡女大 人間環境<栄養健康科学>(前・後) 5 - 6 5 - 7 / 熊本県大 環境共生(前・後) 5 - 6 5 - 7 / 沖縄県看護大 看護(前・後) 5 - 6 5 - 7

< セ試個人成績の開示 >

大学入試センターでは、セ試の個人成績(受験科目別。国語は出題分野別)の本人開示を実施している。

出願時の志願者本人の希望に応じて、17年4月16日(土)以降に書留郵便で通知する。

申込方法は、「志願票(提出用)」に成績通知の希望を記入し、通知費用(800円)を検定料等と合わせて16年9月1日(水)~10月15日(金)までに払い込む。

< 前年成績の利用 >

14年セ試から、大学の判断により受験生の前年の試験成績も選抜に利用できるようになった。浪人生への負担軽減措置で、17年は16・17年セ試の成績が利用されることになる。

17年は16年と同様、青森公立大 経営経済の一般入試、静岡大 理<生物地球環境科学>のAO入試でそれぞれ利用する。

一般入試	2次試験
------	------

理科・数学・外国語の科目増、“学力重視”の傾向続く。

<入試日程>

17年国公立大2次試験は、17年1月24日(月)～2月2日(水)まで出願受付が行われ、前期(2月25日<金>から)・中期(3月8日<火>以降)・後期(3月12日<土>以降)の各日程で実施される。

中期日程で実施される一部の公立大を除き、国公立大の2次試験は原則として前期・後期の分離分割方式で行われる。

例外措置

国立大の教員養成系や芸術・体育系、公立大の保健医療・芸術系など、募集人員の少ない学部・学科(専攻)では、分離分割方式によらず、前期または後期のみの募集、日程で入試を行う「例外措置」がみられる。

17年の国立大では教員養成系等の一部と、東京芸大 音楽/お茶の水女大 文教育<芸術・表現行動(舞踏教育)>/神戸大 経営<夜;経営>/山口大 工<夜;機械工>/鹿屋体育大 体育の25大学26学部で前期のみ、教員養成系等の一部及び東京芸大 美術の5大学5学部で後期のみで実施する。

公立大では、青森県保健大 健康科<理学療法>/京都府大 文<文、国際文化>・人間環境など13大学18学部で前期のみ、愛知県芸大 音楽/京都市芸大 音楽の2大学2学部で後期のみ入試となる。このほか、公立大では12大学12学部が中期で行われるが、そのうち、金沢美工大 美術工芸/岐阜薬大 薬/静岡県大 薬/名古屋市大 薬/大阪府大 工/岡山県大 情報工など8大学8学部は中期のみ、釧路公立大 経済/高崎経大 経済/都留文科大 文/下関市大 経済の4大学4学部は前期・中期で実施する。

なお、横浜市大は17年に法人化を目指し、国際総合科学部(520人;従来の商・国際文化・理の3学部を統合)と医<看護;80人>を新設予定だが、全学部で一般入試を前期に一本化(16年は前・後期で実施)して実施するため、要注意だ。

<理科・数学・外国語の科目増、負担増>

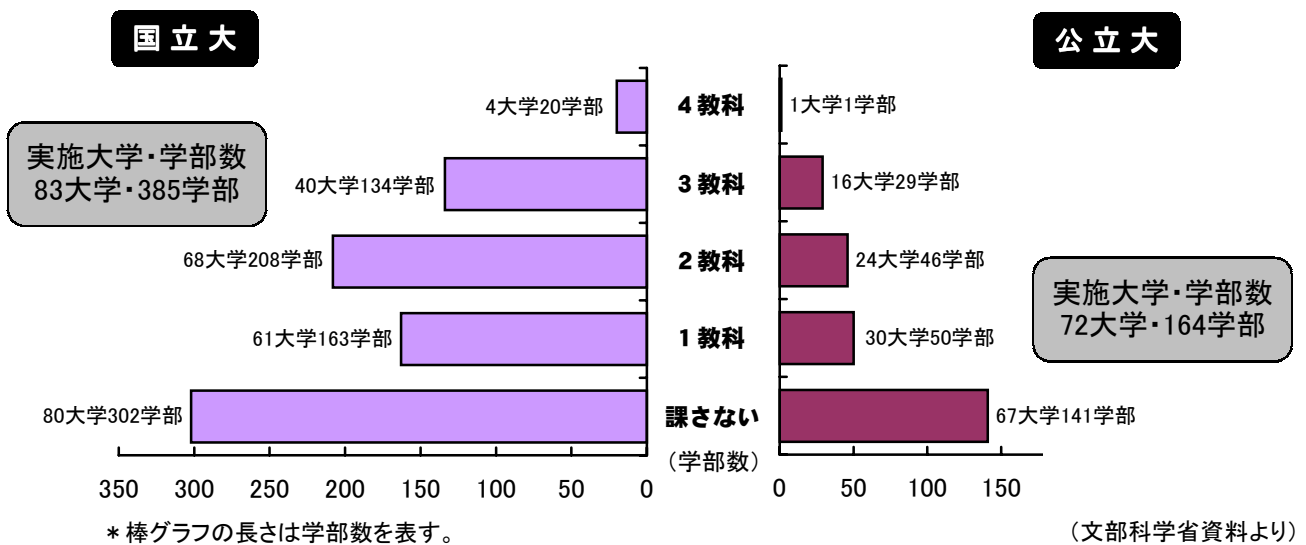
17年の2次試験で課せられる教科数の状況を、国立大と公立大別に図2に示した。国立大、公立大とも2次試験を課さないところが多いが、これは、後期試験のほとんどが学力試験(学科試験)を課さず、小論文や面接、総合問題、実技などで選抜しているためである。しかし、一般入試の募集人員の7割以上を占める前期試験では、2～3教科を課す学部・学科が多い。

17年入試で3教科を課す学部数は、16年に比べ、国立大で若干増加、公立大で減少している。しかし、入試科目でみると、理科や数学、外国語の科目増が目立ち、学力重視の傾向が2次試験にもあらわれている。2次試験で科目増または負担増となった主な大学・学部は、次のようなところである。

岩手大 農<農業生命科学>(後)面接を追加/東北大 工(後)理科1 2科目/茨城大 教育<人間環境(環境)>(前)小論文 数学、教育<情報文化=生活デザイン>(後)数学を追加/新

瀧大 工(前)外国語を追加(建設は理科も追加) / 名大 情報文化<自然情報>(前)理科を追加 / 阪大 医<保健>(後)小論文 外国語 / 鳥取大 地域<地域政策>(後)面接を追加 / 岡山大 農(前)理科1 2科目 / 愛媛大 理<数学・物理・化学>(後)面接を追加 / 高知大 人文<人間文化・国際社会コミュニケーション>(後)面接を追加 / 九大 芸術工<環境設計・画像設計>(前)理科を追加(音響設計は理科1 2科目) / 宮崎大 医<医>(前)小論文 数学・外国語 / 秋田県大 システム科学技術・生物資源科(前)理科1 2科目 / 愛知県看護大 看護(前・後)英語を追加 / 滋賀県大 人間文化<生活文化(生活デザイン)>(前)総合問題 外国語・小論文、同<地域文化>(前)総合問題 国語・外国語 / 兵庫県大 経済(前・後)数学・外国語から1 数学・外国語必須 / 北九州市大 法<昼>(後)面接を追加

●17年2次試験教科数&実施大学・学部数 (図2)



<小論文から学力試験へのシフト>

国公立大一般入試における選抜方法ごとの実施学部数をみると、17年は小論文・リスニング・総合問題の実施学部数はやや減少したが、面接を実施する学部数がやや増加している(図3・表3参照)。

とくに小論文の実施学部数は、16年より6学部(国立大4学部、公立大2学部)減少したが、これは、静岡大 農(後)で小論文 理科、阪大 医<保健>(後)で小論文 外国語、福岡教育大 教育<初等=数学>(後)で小論文 数学、宮崎大 医<医>(前)で小論文 数学・外国語と、学力試験へシフトしたことなどが影響している。

一方、面接の実施学部数は、16年に比べて国立大で2学部減少したが、公立大では北九州市大 法<昼>(後)など6学部で増加している。

<公立6大学の新設等>

国立大では、17年に大学を新設するところはないが、山形大では教育学部から地域教育文化学部、福島大では教育・行政社会・経済の3学部から人文社会・理工の2学群への改

組をそれぞれ予定している。

また、学科新設としては、広島大 歯<口腔保健>/山口大 経済<観光政策>/琉球大 法文<観光科学>の3大学3学部の3学科が予定されている。とくに山口大と琉球大での観光系学科の新設は、国立大としては初めての試みで、受験生の動向が注目される。

公立大では、次の大学が17年に新設予定(一部予定)である。

群馬県県民健康科学大 看護、診療放射線 / 首都大学東京 都市教養、都市環境、システムデザイン、健康福祉 / 石川県大 生物資源環境 / 山梨県大 人間福祉、国際政策、看護 / 大阪府大 工、生命環境科学、理、経済、人間社会、看護、総合リハビリテーション / 県立広島大 人間文化、経営情報、生命環境、保健福祉。

このうち、首都大学東京は都立大・都立科技大・都立保健科学大の統合、大阪府大は大阪府大(旧)・大阪女大・大阪府看護大の統合、県立広島大は広島県大・県立広島女大・広島県保健福祉大の統合によるもので、いずれも既に設置認可されており、セ試が課される。

また、群馬県県民健康科学大・石川県大・山梨県大はいずれも11月認可の予定だが、16年にセ試を課していた「短大の改組・転換」や「大学・短大の統合」により新設されるため、17年もセ試を課す予定だ。

< 募集人員 >

17年に入試を実施する国公立大は、155大学549学部である(公立大の別日程入試、私立・産業医大を除く。以下、同)。内訳は、国立83大学385学部、公立72大学164学部である。

推薦入試などの特別選抜やAO入試、専門高校・総合学科卒業生選抜を除いた、一般入試の総募集人員は101,406人(国立大83,150人、公立大18,256人)で、16年(『入学者選抜要項』記載の募集人員)より639人(0.6%)の減少となった。

分離分割方式の前期と後期の募集人員の割合は、前期=75.4%(16年74.8%)、後期=24.6%(同25.2%)で、前期が16年よりやや上昇している(表4参照)。

入学定員は国立大は微減、公立大は微増で、12万人

前述の総募集人員(101,406人)は一般入試のみであるが、推薦・AO入試なども含めた入学定員は国立大96,408人、公立大23,847人の合計120,255人で、国立大は前年より微減、公立大は微増である。

ただ、国立大の入学定員については、16年8月末に文部科学省より「17年度国立大学入学定員増減計画」(17年度予算の要求ベース)が発表されており、各大学・学部(学科等)の入学定員は、今後変更される場合もある。

今回の計画によれば、国立大の入学定員は、再編・統合に伴う増減はないが、学部等の改組による増員1,185人、学科新設による増員110人、入学定員の改訂による減員160人などで、前年に比べ差し引き40人(0.04%)減員の96,485人である。

とくに入学定員の改訂では、静岡大 人文<法>は、法科大学院の新設による大幅な定員減(65人)が予定されており、難化が予測されるため、要注意だ。

定員増減計画(予定)は、17年度の予算成立を待って決定されるため、詳細は各大学の『追加募集要項』(16年12月末~17年1月上旬配付)等を参照されたい。

< 2 段階選抜 >

2 段階選抜の実施予告大学・学部数は、国公立大全体では 16 年より 2 大学減、6 学部減の 57 大学 177 学部である。

2 段階選抜が廃止されたのは、千葉大 法経(前)・理<生物>(後) / 東京外語大 外国語(前・後) / 電通大 電通<昼・夜>(前・後) / 島根大 医<看護>(前・後) / 香川大 医<看護>(前・後)などである。また、予告倍率が緩和されたのは、福島県医大 医(前)<募集人員の 5.0 倍 6.0 倍> / 千葉大 法経(後)<同、10.0 倍 15.0 倍> / 京大 医<保健>(前)<同、約 3.0 倍 約 5.0 倍>など。

一方、予告倍率が引き締められたのは、千葉大 医(前)<募集人員の 3.5 倍 3.0 倍> / 横浜市大 医<医>(前)<同、4.0 倍 3.3 倍>などである。

< 2 次試験の出願予測 >

国公立大 2 次試験への出願動向は、セ試の平均点アップ・ダウンに強く影響されるが、現時点で 17 年の国公立大志願者数(延べ数)を予測すると、16 年より 3 万 2 千人(6.0%)程度減って 51 万人前後が見込まれる。

国立大では 9 割以上の大学がセ試 5 教科 7 科目以上となることから、難関・上位大(学部)を除き、国立大からセ試科目数の少ない地元周辺の公私立大への流出が例年以上にみられるであろうが、国公立大全体としては大学受験生数の減少幅よりやや大きい、前年比 6.0% 程度の減少になると予測される。

ただし、17 年は“旧課程(現役生からみれば現行課程)入試最後の年”で、18 年からは新課程入試(15 年からの新教育課程で学習した高校生に対応した入試)がスタートする。

そのため、受験生の中には、17 年入試で志望校に合格しようと、浪人を敬遠する意識も高まり、これまで以上に激戦となる大学・学部も出てこよう。

●国公立大 入学者選抜概要の推移(学部数)

(表3)

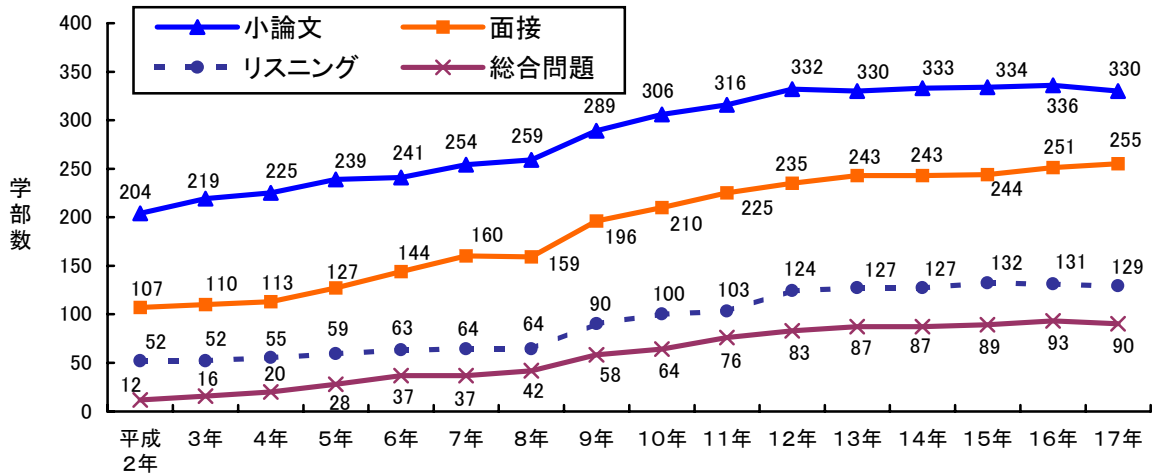
内容		平成 2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
入学者選抜実施学部		444	451	453	460	474	488	500	506	517	530	542	547	550	551	550	549	
方式・ 日程	分離分割方式	158	196	241	310	348	378	392	466	475	520	532	537	540	540	540	536	
	連続方式 A 日程	151	141	130	115	110	102	97	13	12	—	—	—	—	—	—	—	
	連続方式 B 日程	141	119	93	55	41	31	29	12	11	—	—	—	—	—	—	—	
	中期(C 日程)	10	12	12	12	13	12	12	12	13	12	12	12	12	12	12	12	
センター 試験	6教科を課す	—	—	—	—	—	—	—	7	7	4	5	6	6	6	144	163	
	5教科を課す	379	370	366	360	367	373	376	395	399	403	405	407	408	410	386	383	
	4教科を課す	57	69	80	96	107	115	119	139	146	150	163	169	170	165	109	97	
	3教科を課す	63	91	110	142	162	172	178	193	195	206	221	222	218	215	170	162	
	2教科を課す	8	12	12	18	30	35	36	38	41	47	50	50	47	45	39	30	
	1教科を課す	1	1	1	2	3	3	4	5	5	7	6	8	8	7	6	7	
	課さない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	1	
2次 試験	4教科を課す	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	20	22	22	22	21	21	
	3教科を課す	—	—	—	—	—	—	—	—	—	148	154	156	164	169	166	163	
	2教科を課す	—	—	—	—	—	—	—	—	—	249	250	251	251	254	257	254	
	1教科を課す	—	—	—	—	—	—	—	—	—	223	223	218	216	217	213	213	
	課さない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	436	445	448	453	453	448	443	
選抜 方法等	一般 入試	小論文	204	219	225	239	241	254	259	289	306	316	332	330	333	334	336	330
		総合問題	12	16	20	28	37	37	42	58	64	76	83	87	87	89	93	90
		面接	107	110	113	127	144	160	159	196	210	225	235	243	243	244	251	255
		実技検査	70	71	73	73	74	75	76	78	78	78	78	78	80	80	79	77
		リスニング	52	52	55	59	63	64	64	90	100	103	124	127	127	132	131	129
	学力試験を課さ ず小論文、面接 等のみで選抜		187	220	246	295	319	339	349	406	415	436	445	448	453	453	448	443
	特別 選抜	推薦入試	232	245	253	264	284	302	310	330	344	369	389	398	398	402	406	409
		(内「セ試」課す)	107	106	105	106	107	111	113	118	118	122	125	123	123	122	119	118
		(内「セ試」免除)	139	154	164	178	201	222	228	246	263	291	321	337	341	343	350	356
		帰国子女	161	174	186	208	220	233	234	241	253	267	279	287	287	292	293	292
		中国引揚者等 子女	30	33	41	47	53	55	59	62	66	76	82	82	85	85	81	79
		社会人	37	42	45	57	69	84	87	107	119	133	149	169	170	179	179	181
	AO入試		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	32	58	73	86	101
	専門高校・総合学科 卒業生選抜		—	—	—	—	—	—	1	6	12	20	21	21	21	21	20	20
その他	2段階選抜 実施予告	249	254	240	228	222	222	220	210	204	205	200	189	185	185	183	177	

注1. 数字はすべて文部科学省発表の学部数で、産業医大を除く。

注2. 「—」は実施していないか、公表されていないことを示す。

注3. C日程は10年まで。

●国公立大で小論文、面接、リスニング、総合問題を課す 学部数の推移 (一般入試) (図3)



17年国公立大一般入試 / 地区別・日程別募集人員 (表4)

	前期日程 (人)	後期日程 (人)	中期日程 (人)	合計 (人)
北海道・東北	10,698	3,271	135	14,104
関東・甲信越	19,947	6,688	555	27,190
北陸・東海	9,820	3,555	430	13,805
関西	13,013	4,202	625	17,840
中国・四国	9,969	3,243	267	13,479
九州	11,476	3,512		14,988
全国合計	74,923	24,471	2,012	101,406
割合	75.4%	24.6%		
	73.9%	24.1%	2.0%	

注1. 17年「入学者選抜要項」(16年7月末現在)ベースによる。

注2. 人数は推薦入試等の特別選抜、AO入試、専門高校・総合学科卒業生選抜及び産業医大を除く。

注3. 割合の上段は前・後期日程内での割合、下段は総募集人員(前・後・中期日程)内での割合。

特別選抜 推薦入試 / 帰国子女等

セ試免除推薦入試は増加傾向。国立大-医では、一部に「地元枠」導入の動き。帰国子女・社会人特別選抜は横ばい。

< 推薦入試 >

“セ試免除”推薦が増加

推薦入試を実施する大学・学部数は年々増加しており、17年には143大学409学部(16年は144大学406学部)に達する(表3参照)。大学数では公立大の統合などで1大学減少しているが、学部数では3学部増えており、実施率もアップしている。

実施率は、17年に入学者選抜を行う国公立155大学549学部のうち、大学数で92.3%(前年と同じ)、学部数で74.5%(前年比0.7ポイント増)にあたる。

とくに最近では、セ試を免除する推薦の学部数が増えている。過去5年間の実施学部数

をみても、セ試を免除する推薦は 337 学部(13 年) 341 学部 343 学部 350 学部 356 学部と増加している。一方、セ試を課す推薦は、123 学部(13 年) 123 学部 122 学部 119 学部 118 学部と減少傾向にある。

17 年にセ試免除推薦を新規に実施するのは、島根大 法文などで、宮崎大 農<地域農業システム>ではセ試課す推薦からセ試免除推薦に変更する。一方、セ試課す推薦を新たに導入するのは、信州大 医<医>/奈良女大 理<数学>などであるが、特に信州大では長野県内の高校を対象とした「地元枠」を設ける。また、佐賀大 医<医>でも 17 年からセ試免除推薦で、従来の全国枠に加え、佐賀県内の高校を対象とした「地域枠」を設ける。

このような地元枠導入の背景には、医師不足が深刻化する地域で、その地域に残り医療を担う人材を育てたいとする、大学側の要望がある。地元枠対象の推薦入試は、滋賀医大 医<医>が平成 10 年に導入して以来、実施した国立大は 16 年までなかったが、17 年からの実施を機に今後導入する大学も出てこよう。

なお、横浜市大は、17 年に新設予定の国際総合科学部(従来の商・国際文化・理の 3 学部を統合)で、従来の公募制推薦から全て指定校制推薦(100 人)に切り替え、書類審査・面接で選考を行う。

< 帰国子女・社会人特別選抜 >

帰国子女特別選抜は 107 大学 292 学部(16 年 107 大学 293 学部)、社会人特別選抜は 96 大学 181 学部(同 95 大学 179 学部)となっている(表 3 参照)。帰国子女及び社会人特別選抜は、ともに横ばい傾向にある。

A O 入試 / 専門・総合選抜

国立 3 大学、公立 7 大学が A O 入試を新規導入。
専門・総合選抜は 17 大学 20 学部で実施。

< 国立大の 3 校に 1 校が A O 入試実施 >

国公立大の A O 入試は、12 年に東北大・筑波大・九大・岩手県大の 4 大学 12 学部で初めて実施された。その後、実施大学・学部数は、13 年 = 8 大学 32 学部 14 年 = 16 大学 58 学部 15 年 = 21 大学 73 学部 16 年 = 29 大学 86 学部と増加し続け、17 年はさらに増加して、国立 25 大学 82 学部、公立 13 大学 19 学部の計 38 大学 101 学部で実施される(表 3 参照)。

実施率も年々アップしており、16 年 17 年でみると、大学数で 18.6% 24.5% (国立大 = 26.5% 30.1%、公立大 = 9.6% 18.1%)、学部数で 15.6% 18.4% (国立大 = 19.3% 21.3%、公立大 = 6.8% 11.6%) とアップしている。とくに国立大は実施率 30.1% で、国立大の約 3 校に 1 校が A O 入試を 17 年に実施する。

A O 入試の新規実施大学は、国立大では福島大 理工学群 / 山梨大 工 / 愛媛大 スーパーサイエンス特別コース(理・工)の 3 大学 3 学部 1 学群、公立大では青森公立大 経営経済 / 国際教養大 国際教養 / 群馬県女大 文・国際コミュニケーション / 首都大学東京 都市教養・都市環境・健康福祉 / 横浜市大 国際総合科 / 兵庫県大 看護 / 県立長崎シ

ーポルト大 国際情報の7大学10学部である。

なかでも、愛媛大では、理・工学部及び関連領域にまたがった、環境科学・地球惑星科学・生命科学工学の3コース(スーパーサイエンス特別コース)を設け、同大大学院等までの進学希望者を募集する。

この他、既にAO入試を実施している大学でも、筑波大 図書館情報専門学群/東京海洋大 海洋工/神戸大 発達科の3大学2学部1学群で新規に実施する。

< 専門・総合選抜 >

専門高校や総合学科を対象とする専門高校・総合学科卒業生選抜は、国立15大学16学部、公立2大学4学部の計17大学20学部で実施される(表3参照)。実施大学・学部数は前年と同じ。

入試情報の開示

国立大の59%は正解・解答例を開示。
開示情報を学習、志望校選定に生かそう。

< 入試情報の活用 >

情報公開の流れを受けて、国公立大では、13年入試から従前の入試情報に加え、個人成績や正解・解答例などの情報も開示するようになった。

ほとんどの国立大では、受験生本人からの請求に応じて、セ試や2次試験などの成績(得点・評価・順位など)を受験生本人に開示しているのに加え、合格最高・最低点や合格者の平均点なども公表している。しかし、正解・解答例は、受験生の自由な発想を束縛してしまうおそれもあり、教育の多様化や総合的な学力評価などの観点から問題点も指摘されており、開示している国立大は59%に留まっている。

「合格者の成績」は、模擬試験の合格可能性などと合わせて、志望校選定に大いに参考になろう。また、「正解・解答例」については前述のような観点もあるが、大学側が要求する答案の書き方や解き方のポイント、出題のねらいなどが把握できよう。

入試情報の開示は、アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)とともに、各大学の要項類やホームページ等に提示されている。それらの情報を学習対策や志望校選定に生かしてほしい。